

2023 年度 シラバス

科目名 教育社会学特論 (R5 認定通信)	単位数 4 単位	担当教員 石原 朗子
テキスト (1) 耳塚寛明 (2014), 『教育格差の社会学』, 有斐閣 ISBN-10:4641220131 (2) 松岡亮二 (2019), 『教育格差 階層・地域・学歴』, ちくま新書 ISBN-10:4480072373		
科目の概要 教育や何らかの事象を測る際、そこに個々の違い (差異) があります。「差異」に優劣がつき、その差異が問題とされ、その問題は是正されるべきと見なされた時、その「差異」は「格差」と呼ばれます。 本科目では、現代の教育を捉える上で「教育格差」という観点を切り口に考えます。前半では、教育格差という問題にまつわる教育社会的な考え方を学修し、後半では、教育格差の各学校段階別の実態、学校間での関わりを学修していきます。 最終的には、「自身の身の回りにおける教育格差の問題は何か」を考え、自身で何らかの解決の糸口を見だし、または実態に基づき、自身にできることを考えていきましょう。		

I 科目の目的・ねらい 1. 教育格差をめぐる基礎概念を理解できる。 2. データに基づいて教育格差を考えることができる。 3. 各学校段階における教育格差の実態を理解し、その関連性を理解できる。 4. 教育格差への対応について自分なりの考えを持ち、表現することができる。

II 授業計画と評価 第 1 回 教育における格差とは何か 第 2 回 カリキュラムと学力について考える 第 3 回 教育格差を考える①-機会均等の観点から- 第 4 回 教育格差を考える②-学校から職業への移行- 第 5 回 社会化と逸脱、階層 第 6 回 格差をめぐる視点-ジェンダーと教育, 国際開発と教育- 第 7 回 教育格差を埋める視点①-教育格差と福祉- 第 8 回 教育格差を親の学歴と子の学歴の関わりからの視点から考える 第 9 回 学校段階別の格差の実態①-幼児教育- 第 10 回 学校段階別の格差の実態②-小学校- 第 11 回 学校段階別の格差の実態③-中学校- 第 12 回 学校段階別の格差の実態④-高等学校- 第 13 回 制度により拡大される高校の教育環境の格差 (第 5 章) 第 14 回 未来の社会に向けた建設的な議論のための 4 カ条 第 15 回 教育格差を埋める視点②-教育格差を研究すること・教育すること-

科目修得試験

評価については、レポート 50%、科目修得試験 50%の割合で行う。

Ⅲ 参考文献

- (1) 志水宏吉(2014),『「つながり格差」が学力格差を生む』, 亜紀書房
- (2) 志水宏吉ほか(2014),『調査報告「学力格差」の実態』, 岩波ブックレット
- (3) 松岡亮二編著(2021),『教育論の新常識 格差・学力・政策・未来』, 中公新書ラクレ

Ⅳ その他

本科目では、「教育格差」をテーマにあげます。教育問題は 1 つの語り口で言い尽くせるものではありません。したがって、テキストを読む際に、盲目的に読むのではなく、批判的に読む、あるいは、自分の周りの状況を考えながら読むと、より理解が深まり、また教育課題への取り組みも変わってくると思います。本科目をきっかけに、教育課題についての本に興味・関心を広げていただけると嬉しいです。